

# 劇場公開映画「TOKYO TRIBE」企画書

タイトル『TOKYO TRIBE(トーキョートライブ)』長編劇映画

原作:「TOKYO TRIBE 2」(祥伝社)

著者:井上三太(「隣人13号」)

監督・脚本:園子温(「冷たい熱帯魚」「恋の罪」「ヒミズ」「希望の国」)

出演:未定

製作:日活、フロムファースト

配給・宣伝:日活(<http://www.nikkatsu.com/>)

制作:ジャンゴ・フィルム(<http://www.django-film.co.jp/>)

撮影スケジュール:2013年8月中旬～9月中旬

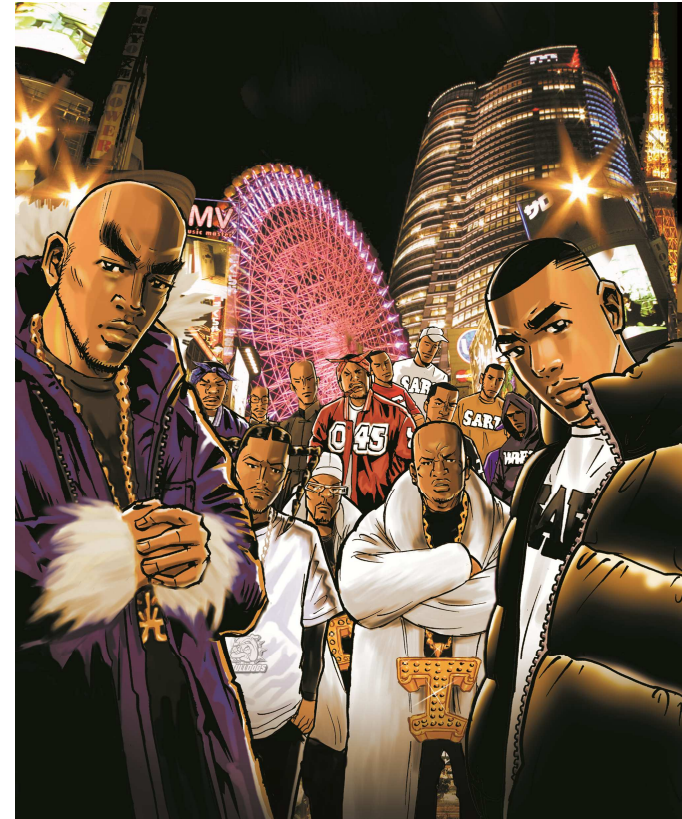
公開:2014年夏頃を予定

ホームページ:(<http://tokyotribe-movie.com/>)

## 原作『TOKYO TRIBE 2』とは？

漫画「TOKYO TRIBE」の続編。より自由な表現で漫画を描きたいとする井上三太氏の強い要望により、漫画雑誌ではなく、ファッション誌「Boon」(祥伝社)に於いて、1997年から2005年まで連載された。井上三太氏が経営するアパレル・ショップSANTASTIC!とも連動し、漫画、アパレル、フィギュアといったサブカルチャーを広く巻き込み、渋谷を代表する一大ムーブメントを築き上げた作品。単行本は全12巻。

ストーリーは、前作と同じく架空の町、“トーキョー”に生きる若者達の日常を描いている。暴力、犯罪、殺人、セックス、そして愛と友情を過激に、過剰に描写している。当時、渋谷や池袋で話題になった「チーマー」文化を背景に、現代社会に反発する若者達の怒りや暗黒面が曝され、当時の若者から圧倒的な支持を得た。海外でも人気は高く、アメリカを始め多くの国で翻訳本が出版されている。特に香港での人気が高く井上三太氏のサイン会に多くの若者が詰め掛け、ファッションもブームになった。2006年11月にはマッドハウス製作のアニメーションがWOWOWで放送され、過激な描写が話題となり、アニメでは異例のR-15指定での放送となった。漫画、アニメ、アパレル、フィギュア…既に多くの商品が発売されている超人気作です！



## 【STORY】

ここはアナタが知っている東京とはちょっと違う“トーキョー”。そこには様々なトライブ(族)が存在し、この街を暴力で支配しながらお互いの縄張りを守っていた。主人公、出口海はムサシノSARUに所属し、いつものようにファミレスで仲間たちと他愛のない話をしていたが、SARUのメンバーがブクロに行ったことを知り、仲間を探しにブクロへと出掛けるが、ブクロで仲間を殺されてしまう。その時、海が出会ったのはかつての幼馴染・メラだった。メラは今やブクロを制圧するブクロWU-RONZのトップに君臨し、街で女性を拉致し、ブツパと呼ばれる悪の帝王に生贄として調達していたのだ。メラはこれをきっかけにSARUに戦争を仕掛け、その生贄の中に居たスンミを海が助けたことで、事態は益々混乱、スンミを探すためにウオンコンから送られた刺客・ジャダキンスや東京中のトライブを巻き込んだ一大戦争へと発展してゆく…

果たしてメラと海はかつての友情を取り戻すことができるのか？それとも殺し合うことでしか決着をつけられないのか？嵐のような一日がはじまろうとしている…。